

飯盛山 国重文 さざえ堂

(旧正宗寺円通三匠堂、きゅうしょうそうじえんつうさんそうどう)
福島県会津若松市一箕町大字八幡字弁天下甲1404-2

さざえ堂は、全国的に三匠堂（さんそうどう）ともよばれ、三十三観音を堂内に安置して巡るため建てられたものです。安永9年（1780）江戸本所の羅漢寺に建てられたものが最初で、浅草の堂が良く知られていました。

全国には、次が残っています。

- 福島県会津若松市の飯盛山
旧正宗寺・円通三匠堂（三層・六角堂）
- 群馬県太田市の曹源寺観音堂（二階建の方形）
- 茨城県取手市の長禅寺三世堂（二階建の方形）
- 青森県弘前市の蘭庭院さざえ堂（二階建の八角堂）
- 東京足立区西新井大師（三階建ての方形三重塔）があります。

しかしながら、飯盛山のように、通路が登りと下りが別で、正面から登り、裏に下るスロープとなっている木造建造物は、世界的に例がない特異な建物です。

『新編会津風土記』に寛政8年（1796）、臨濟宗実相寺40世、郁堂和尚により建立されたものです。

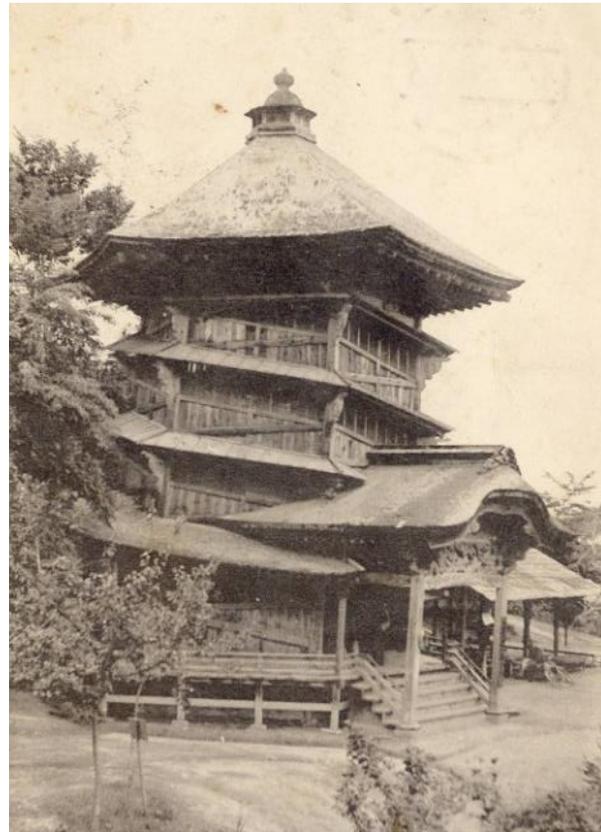
飯盛山には、本尊として弥陀如来が置かれ、さざえ堂内には西国三十三観音の木像が安置されていました。

しかし、明治3年の廃仏希釈により、飯盛山は神社となり、神社参道入口にあった大仏は、市内七日町阿弥陀寺に移転され、それとともにさざえ堂内にあった三十三観音像は外され、別の寺院に移転されたようです。そして堂内は皇朝二十四孝子の絵額が掲げられました。

さざえ堂の高さは約16メートルあります。

平成7年6月27日 国重要文化財指定

拝観 大人400円 0242-22-3163



飯盛山墓地整備当時(大正末)のさざえ堂



飯盛山の由来 宗像神社

平安時代の初め、宮城県
多賀城から非難したのが堂家
で、墓料に住んでいました。
飯盛山とは、飯盛山の西麓
を農夫が耕していた時、山頂
に紫雲が立ち、その中に靈妃
が現れました。多くの女の
を従え、農夫に近づき、堂を
建てるようにと云い残して
去ったという。農夫は石部・
堂家・石塚の三家に相談し、
永徳年中（一三八一年から八
四年）に堂が建てられたとい
う。女の子は、赤小豆飯を茶
碗の盛り（飯盛山の由来）、
牛を従えて来た。その牛は数
十歩で見えなくなりす。その
場所が牛墓の由来という。そ
場所が牛墓の由来で、現在は
墓は東部公園西側にありす。

